

はじめに

本年3月25日から9月25日まで、「自然の叡智」をテーマに日本国際博覧会（愛・地球博）が開催されました。

21世紀の自然と人間の関わりを探求し、地球環境問題を意識した多くの展示や催事が行われました。

私はこの会場で、永久凍土より発掘されたという冷凍マンモスの標本を目の当たりにしました。

環境の変化に対応して進化を遂げていながら、余りの激変に対応できず1万年前に絶滅したとされるマンモス。地球温暖化が叫ばれ、気温が上昇しているといわれる今日、この冷凍マンモスが何かを訴えているような気がしてなりませんでした。

さて、本市では平成16年3月に市民・事業者の皆さんと市が共通の目標に向かい、手を携えて環境保全の取り組みを進めていくための基本となる「環境基本計画」を策定しました。

この計画の初年度にあたる平成16年に、ごみ減量と資源化を目的に有料化制度を導入するとともに、市街地内の丘陵地のみどりを保全するための新たな条例を制定し、今ある貴重なみどりを次世代まで残していく仕組みも作りました。

地域での活動としては、環境市民会議が町会・自治会などと連携し、身近にあるみどりや湧水の実態調査、或いはごみ減量の啓発活動など、自発的かつ積極的な取り組みがなされました。

このように市民・事業者の皆さんと協働で環境基本計画に盛り込まれた事業を推進し、今回、「環境白書」としてその成果を報告できることは、大きな喜びです。是非、多くの方々にお読みいただき、市の環境の現状をご理解いただくと同時に、着実に努力を重ねることで、実を結んでいく様子を確認していただけたら幸いです。



平成17年10月

八王子市長

黒須隆一